

July 29, 2019

**【前日の為替概況】ドル円、米 Q2GDP 速報値とクドローNEC 委員長発言で 108.83 円まで上昇**

26日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは反落。終値は1.1128ドルと前営業日NY終値(1.1147ドル)と比べて0.0019ドル程度のユーロ安水準だった。9月の欧州中央銀行(ECB)定例理事会での利下げや資産買い入れ再開など包括的な緩和パッケージに対する思惑が浮上する中、全般ユーロ売りが先行。4-6月期の米国内総生産(GDP)速報値が実質で前期比年率2.1%増と予想の1.8%増を上回ったこともユーロ売り・ドル買いを誘った。クドロー米国家経済会議(NEC)委員長が「ホワイトハウスはいかなる為替介入も排除した」と述べ、「トランプ米大統領がドルを弱くしたいと考えている」との見方を否定すると若干ドル買いで反応し、1.1112ドルと日通し安値を更新した。

ドル円は小幅続伸。終値は108.68円と前営業日NY終値(108.63円)と比べて5銭程度のドル高水準だった。予想を上回る4-6月期米GDP速報値をきっかけに円売り・ドル買いが先行し108.83円まで上昇。

NEC委員長の発言を受けて108.82円付近まで再び上げたものの、買いの勢いはすぐに後退した。

ユーロ円は反落。終値は120.95円と前日NY終値(121.11円)と比べて16銭程度のユーロ安水準。ユーロドルの下落につれた売りが出たほか、クロス円が下落した流れを受けて120.80円まで下落した。

なお、クロス円は売りが目立った。豪ドル円は一時本日安値となる75.03円、NZドル円は72.03円、カナダドル円は82.36円、ポンド円は134.55円、スイスフラン円は109.32円まで値を下げた。

南アフリカランドは軟調。格付け会社フィッチが南アの格付け「BB+」の見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げたことを受けてランド売りが出て、対ドルで14.3170ランド、対円で7.59円までランド安に振れた。大手格付け会社ムーディーズは南ア政府による国営電力会社エスコム支援策への懸念を表明しており、同社による投機不適格への格下げの思惑も高まっている。

**【本日の東京為替見通し】ドル円、明日からのFOMCと米中通商協議控えて動意薄か**

本日の東京市場のドル円は、7月30-31日の米連邦公開市場委員会(FOMC)や米中通商協議や8月1-2日の日米通商協議を控えて動意に乏しい展開が予想される。

- ・7月29-30日：日銀金融政策決定会合
- ・7月30-31日：米連邦公開市場委員会(FOMC)と米中通商協議
- ・8月1-2日：日米通商協議

米4-6月期国内総生産(GDP)速報値が前期比年率+2.1%だったことで、先週末時点での7月30-31日のFOMCでの利下げ確率は、0.25%が82.5%、0.50%が17.5%となっている。

7月18日にウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁が「積極的に予防的なアプローチをとるほうが良い。現在、米国の中立金利は0.5%程度と予測」と述べた後、NY連銀スポークスマンが「総裁の発言は学術的なスピーチであり、今月のFOMCにおける政策に関するものでない」と述べて、0.50%の予防的利下げ観測を打ち消した。中立金利が0.50%程度だとすれば、期待インフレ率は1.7%程度なので、中立金利水準は、2.2%付近となり、現在の政策金利であるFF金利誘導目標(2.25-2.50%)を下回っていることで、金融政策は引き締め気味となり、0.50%程度の利下げが必要となる。また、6月のNY連銀米景気後退確率指数が32.9%まで上昇しており、30%を超えた場合、過去7回のリセッション(景気後退)の先行指標となっていることで要警戒か。

トランプ米政権のドル売り介入の可能性に関しては、政権内での見解の不統一が垣間見えている。

7月3日、トランプ米大統領は「中国と欧州は大きな為替操作ゲームに興じている。米国は同じ事をやるべきだ」と、中国人民元とユーロへの不満を表明した。

18日、ムニューシン米財務長官は「現時点で米国のドル政策に変更はない」と述べた。

そして、ナバラ大統領補佐官がトランプ米大統領に対し、通商交渉で中国に圧力をかけるためのドル安誘導を提案したが、トランプ米大統領は拒否した、と報じられている。

26日、クドロー米国家経済会議(NEC)委員長が「トランプ政権はいかなる為替介入の可能性も排除した」と述べたが、「大統領が懸念しているのは、他国が自国通貨を操作して下落させることによって、短期的かつ一時的な貿易上の優位性を得ようとしていることだ」とも述べている。さらに、トランプ米大統領が「(ドルについて)行動を起こさないとはいっていない」とも述べており、今後も予断を許さない状況が続くことになる。

**【本日の重要指標】** ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◇ 6月商業販売統計速報（小売業販売額、予想：前年比0.2%）
- 日銀金融政策決定会合（1日目）

## &lt;海外&gt;

- 15:00 ◇ 6月南アフリカマネーサプライ M3（予想：前年比8.50%）
- 17:30 ◇ 6月英消費者信用残高（予想：10億ポンド）
- 17:30 ◇ 6月英マネーサプライ M4

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。  
※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

## 【前日までの要人発言】

26 日 18:12 エルドアン・トルコ大統領  
「トルコ中銀の利下げは十分ではない」  
「段階的な利下げの継続が必要」

26 日 23:24 クドロー米国家経済会議(NEC)委員長  
「ホワイトハウスはいかなる為替介入も排除する」  
「米中が来週合意に達するとは予想せず」  
「トランプ米大統領は弱いドルを望んでいない」

26 日 23:26 トランプ米大統領(ツイーターにて)  
「アップルは中国での部品生産において、関税免除を受けられなくなるだろう」  
「グーグルと中国の関係、国家安全保障上の懸念に繋がるかもしれない」

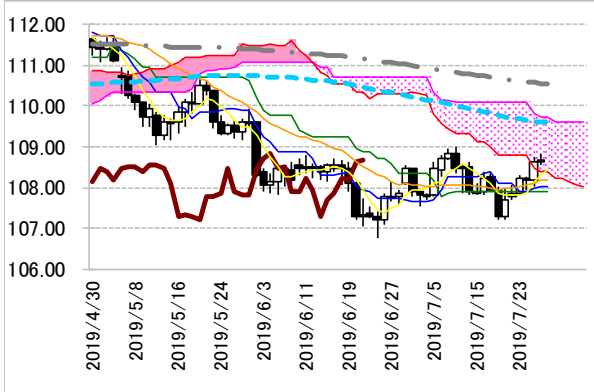
27 日 01:47  
「米企業にデジタル税を課した仏に対して、報復措置を直ぐに取るだろう」

27 日 05:30  
「中国は元安を誘導している」  
「もしFRBが利上げしなければ、米経済成長は更に強いものだった」  
「安全な第三国を巡り、メキシコと追加協議をするだろう」

27 日 00:47 南アフリカ財務省  
「エスコムなどの国営企業により財政逼迫やリスクがもたらされていること、政府は認識している」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

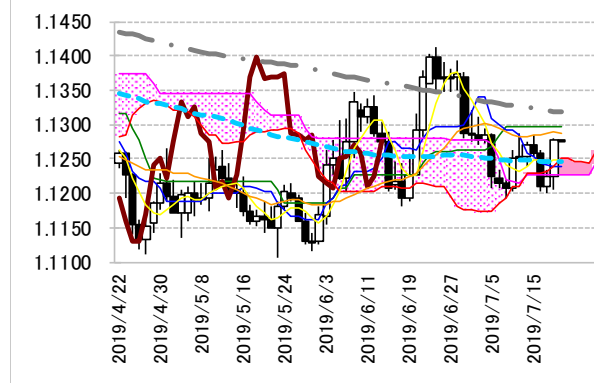


### <ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移していることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、雲の下限 108.37 円を念頭に置きながら、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	109.93(5/30 高値)
レジスタンス 1	109.73(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	108.68
サポート 1	108.02(日足一目均衡表・転換線)

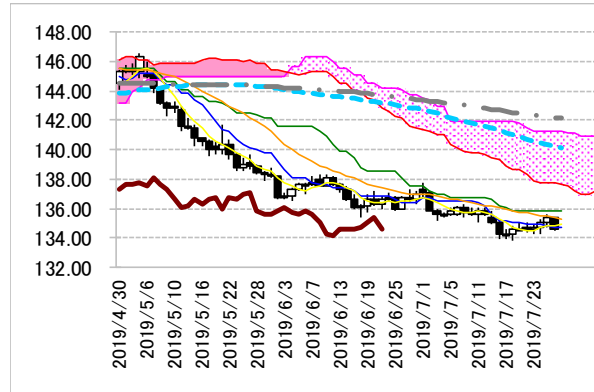


### <ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1192(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1128
サポート 1	1.0975(2017/5/16)

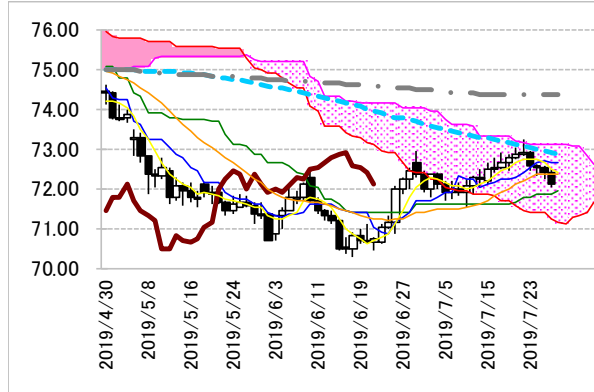


### <ポンド円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。綾戻しを形成中だったものの、高値圏での抱き線で下落トレンドが再開する可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	135.82(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	134.60
サポート 1	133.85(7/18 安値)



### <NZドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移しているものの、一目・転換線を下回って引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。7月22日の寄り引線、4手連続陰線で下落トレンドの可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	72.64(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	72.12
サポート 1	71.14(日足一目均衡表・雲の下限)

